LEXUS TEAM ZENT CERUMO

2018 AUTOBACS SUPER GT Report
AUTOPOLIS GT 300km RACE
第７戦　オートポリス

ZENT CERUMO LC500

#38 立川祐路／石浦宏明

◆10 月 21 日（日）　RACE
決勝結果　４位

10 月 20 日（土）の公式予選では速さをみせながら、わずかな不運により８番手というグリッドからスタートすることになった ZENT CERUMO LC500。一夜明け、SUPER GT 第７戦オートポリスは 10 月 21 日（日）の決勝日を迎えた。朝からこの時季らしい晴天に恵まれ、20,380 人という観衆が訪れサーキットは賑わいをみせた。

クルマにスピードがあることは間違いないだけに、決勝では追い上げを期したい LEXUS TEAM ZENT CERUMO は、午後 0 時 25 分から行われたウォームアップでフィーリングをチェック。ステアリングを握った立川祐路は 1 分 37 秒 919 というベストタイムをマークし、午後 2 時からの決勝レースに臨んだ。

スタートドライバーは立川。1 周目、まずは#64 NSX-GT をかわし 7 番手で終えた立川は、前を行く#16 NSX-GT に狙いを定める。4 周目にはテール・トゥ・ノーズに迫ると、7 周目に立川は 1 コーナーでインを刺す。ここでは軽く接触しオーバーテイクはならなかったが、8 周目にはついに #16 NSX-GT をパス。ペースも良く、上位進出の手ごたえを得た。

序盤から GT500 クラスは接戦で、上位陣は熾烈なバトルが展開されていく。そのなかで立川はさらに 5 番手の#100 NSX-GT に狙いを定め、軽い接触もありながら、17 周目の 1 コーナーでこれをパス。レース序盤だけで一気に 5 番手へポジションを上げた。ただ立川の追い上げは、20 周目に最終コーナーで起きたアクシデントの処理のため導入されたセーフティカーにより、やや水を差されてしまう。23 周目のリスタート後、ライバルがピットインしたこともあり 2 番手までポジションを上げたところで、ピットは立川を呼び戻すことになった。

チームは 30 周をこなした ZENT CERUMO LC500 をピットに戻し、迅速な作業でタイヤ交換と給油を実施。石浦宏明がステアリングを握り、ふたたびコースに送り出した。ちょうど石浦の前には、序盤首位を走った#8 NSX-GT、さらに#17 NSX-GT がいた。

石浦はアウトラップながら非常に高いペースを保ち 2 台の背後に迫ると、まずは 33 周目の第 2 ヘアピンで#8 NSX-GT をオーバーテイクする。これで ZENT CERUMO LC500 の順位は 5 番手だ。さらに石浦は、眼前の#17 NSX-GT をかわすべく、バトルを仕掛けていった。

ただ#17 NSX-GT はオートポリスを得意とし、なかなか石浦にスキをみせない。コースの各所で石浦はインをうかがうものの、オートポリスはもともと抜きにくいコース。42 周目、ついに第 2 ヘアピンで石浦は#17 NSX-GT をオーバーテイクするものの、これをかわすのに 10 周を要し、タイムロスを喫してしまった。

　これで石浦のポジションは４番手となるが、前を行くのは３台のレクサス LC500。同じポテンシャルをもつマシンだ。さらに３番手には変則的な２ストップ作戦を採った#19 LC500 が走っており、石浦はなかなか差を詰めることができないでいた。

　レースは首位争いのバトルもあったが、ZENT CERUMO LC500 は４番手のまま終盤を迎えることに。石浦は最後までポジションを上げることはできず、惜しくも表彰台には届かない４位でチェッカーを受けることになった。

　この結果、今季全戦で続けているポイント獲得を継続することになったが、ZENT CERUMO LC500 のチャンピオン争いは非常に厳しい展開となってしまった。それでも、今シーズンを未勝利のまま終えることは LEXUS TEAM ZENT CERUMO にとっては許されない。今回のレースで得たヒントをもとに、ツインリンクもてぎで迎える今季最終戦に、チームは全力で臨んでいく。

ドライバー／立川祐路

「序盤、予選までと異なりライバルとも戦えることを実感していたので、少しでもポジションを上げて石浦選手に繋ごうとオーバーテイクを仕掛けていきました。できる限りのレースはできたのではないでしょうか。残念ながら表彰台に届かず、同じレクサス勢が表彰台を得ているので４位は喜べる結果ではありません。最終戦はなにがなんでも勝って終われるように、石浦選手と力を合わせて頑張りたいと思っています。そろそろ本当に勝たないと『聞き飽きた』と言われてしまいますからね」

ドライバー／石浦宏明

ZENT　LEXUS F　Racing Development TRD　BRIDGESTONE　WAKO'S　asics　BBS　PREMIUM WATER　HEISEI

「前半スティントでの立川選手の走りを見ていて、ペースが良さそうなのが分かりました。順位を上げてきてくれていたので、レースは分があると思い僕の後半スティントも、表彰台を目指し戦っていきました。ピットインのタイミングが難しかったのですが、前に２台の NSX-GT が入ってしまったので、そこは反省点です。２台をかわしてからのペースはトップよりもいいくらいだったので、今まで抱えていた決勝ペースの課題は改善されたと実感しています。表彰台には届きませんでしたが、今回のレースでいろいろと見えた部分もあったので、最終戦こそ勝って終わりたいと思います」

浜島裕英監督

「予選日に比べてもクルマが良くなっているのは間違いなかったです。ただ、ピットインのタイミングが少し悪かったかもしれません。もし２周ほど遅らせていたらタイミングで#17 NSX-GT の前に出られていた可能性もあるので、そうすれば表彰台も獲得できたかもしれません。そこは反省材料ですね。ただドライバーからのフィーリングは大いに改善しています。今シーズン勝利を挙げないわけにはいきませんので、最終戦は優勝して終わりたいと思っています」

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

決勝結果表

Rank	Car No.	CarName	Laps	BestLapTime
1	1	KeePer TOM'S LC500	65	1'36.961
2	36	au TOM'S LC500	65	1'36.883
3	19	WedsSport ADVAN LC500	65	1'37.611
4	38	ZENT CERUMO LC500	65	1'37.385
5	100	RAYBRIG NSX-GT	65	1'37.532
6	17	KEIHIN NSX-GT	65	1'37.021
7	24	ﾌｫｰﾗﾑｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ ADVAN GT-R	65	1'37.501
8	39	DENSO KOBELCO SARD LC500	65	1'37.776
9	6	WAKO'S 4CR LC500	65	1'37.653
10	64	Epson NSX-GT	65	1'36.697
11	12	カルソニック IMPUL GT-R	65	1'36.776
12	8	ARTA NSX-GT	65	1'36.513
13	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R	65	1'38.277
14	16	MOTUL MUGEN NSX-GT	64	1'35.808
15	23	MOTUL AUTECH GT-R	64	1'38.152